

# 河川空間利用実態の現況

## 1. はじめに

近年、河川環境に対する国民の関心は極めて高く、保全から利用まで、その要請も極めて多様化している。このような情勢を踏まえて、建設省では、従来より各種の調査を実施するとともに、多自然型川づくり等の施策を推進しているが、21世紀に向けて、より安全で潤いのある豊かな河川を創造していくためには、今後なお一層の河川の環境に配慮した川づくりの推進が必要である。

このため、建設省では、全国の1級水系および2級水系(ダムの区間を除く)について、河川事業、河川管理を適切に推進するため、河川環境という観点からとらえた、定期的、継続的、統一的な河川に関する基礎情報の収集を図るべく「河川水辺の国勢調査」を平成2年度より実施している。ここでは、「河川水辺の国勢調査」の中でも特に「河川空間利用実態調査」の結果を見ながら河川空間の利用実態の現況について考察する。

## 2. 「河川水辺の国勢調査」(平成5・6年度)の概要

「河川水辺の国勢調査」の「河川空間利用実態調査」は河川空間利用者数調査と河川空間利用に対する利用者へのアンケート調査とで構成される。

平成5年度については、全国の109の1級水系を対象に四季を通じた休日5日、平日2日の合計7日の現地調査を原則として下表のとおりを実施された。

平成6年度については、全国109の1級水系を対象に、春季休日(原則として平成6年4月29日)に実施された。

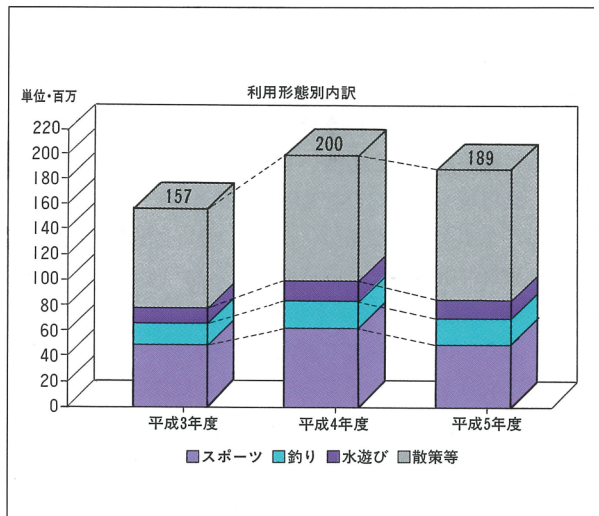
表一 平成5年度 調査実施日

	休 日	平 日
春季	平成5年4月29日(みどりの日) 平成5年5月5日(こどもの日)	平成5年5月17日(月)
夏季	平成5年7月25日(日)	平成5年7月26日(月)
秋季	平成5年11月3日(文化の日)	
冬季	平成6年1月15日(成人の日)	

## 3. 河川空間利用実態の現況

### (1)平成5年度の調査結果から

調査対象河川空間の全国年間利用者数は、1億5千万人から2億人と推定され、国民1人あたり年に1回以上の割合で河川空間を何らかの形で利用していることになる。



図一 全国合計年間利用者総数 (百万人)

表二 年間河川空間利用者総数 (万人)

地方名	平成3年度 年間利用者総数	平成4年度 年間利用者総数	平成5年度 年間利用者総数
北海道	540	930	635
東北	716	753	928
関東	8184	10864	8347
北陸	462	610	777
中部	1589	1528	1728
近畿	2171	2971	3699
中国	468	974	1118
四国	325	382	459
九州	1226	990	1171
全国	15679	20001	18863

平成5年度調査の利用形態別及び利用場所別に利用状況を見てみると、利用形態別では、「散策等」が半数以上を占めることから、日常気軽に河川空間が利用されていることがわかる。利用場所別では、高水敷が最も利用されている(表一3参照)。



表一 3 利用形態別及び利用場所別利用者総数(万人)

	合計	利用形態別内訳					利用場所別内訳			
		スポーツ	釣り	水遊び	散策等	水面	水際	高水敷	堤防	
平成5年度(全国)	18863	4830	2056	1376	10602	717	2752	12069	3325	
	100%	26%	11%	7%	56%	4%	14%	64%	18%	

平成5年の年間利用者数を河川別に見てみると、第1位は荒川(関東)、第2位は淀川、第3位は利根川の順となっており、都市部の河川が利用者数の上位を占めていることから、都市部の貴重なオープンスペースとして河川空間が利用されている現状が浮き彫りにされた(表一4参照)。

表一 4 平成5年度年間利用者総数ベスト10(万人/年)

順位	平成3年度 総合	平成4年度 総合	平成5年度				
			総合	スポーツ	釣り	水遊び	散策等
1	荒川(関東) 3349	荒川(関東) 5458	荒川(関東) 3366	荒川(関東) 937	利根川 611	利根川 194	荒川(関東) 2252
2	利根川 2636	利根川 2953	淀川 3089	淀川 749	淀川 268	淀川 152	淀川 1920
3	淀川 1820	淀川 2586	利根川 2927	利根川 694	多摩川 89	木曾川 108	利根川 1429
4	多摩川 1473	多摩川 1603	多摩川 1384	多摩川 438	荒川(関東) 87	荒川(関東) 89	多摩川 797
5	木曾川 507	石狩川 566	木曾川 673	木曾川 143	木曾川 77	太田川 84	木曾川 344
6	大淀川 424	木曾川 559	太田川 593	信濃川 119	太田川 69	多摩川 60	太田川 339
7	石狩川 275	太田川 460	信濃川 367	庄内川 117	那珂川 62	天竜川 51	石狩川 224
8	天竜川 256	富士川 295	石狩川 344	天竜川 114	大和川 58	信濃川 46	信濃川 209
9	那珂川 251	信濃川 277	天竜川 317	太田川 101	筑後川 45	北上川 45	北上川 197
0	庄内川 211	庄内川 272	北上川 293	石狩川 94	天竜川 38	山良川 37	阿武隈川 162
全国合計	15679	20001	18863	4830	2056	1376	10602
109水系平均	144	183	173	44	19	13	97

表一 5 平成5年度沿川市町村人口あたりの年間利用者総数ベスト10(万人/年・万人)

順位	平成3年度 総合	平成4年度 総合	平成5年度				
			総合	スポーツ	釣り	水遊び	散策等
1	肱川 10.7	網走川 23.0	肱川 22.7	土器川 3.4	高瀬川 2.8	肱川 9.2	肱川 12.3
2	尻別川 9.4	肱川 10.7	円山川 11.8	四万十川 2.5	尻別川 1.6	四万十川 6.1	円山川 9.4
3	大淀川 8.8	円山川 10.6	四万十川 10.6	十勝川 2.1	円山川 1.4	仁淀川 2.0	小丸川 7.3
4	小丸川 7.0	小丸川 9.5	小丸川 10.1	小丸川 1.7	荒川(北陸) 1.4	鶴川 1.6	網走川 5.7
5	鶴川 6.7	荒川(関東) 9.0	鶴川 7.5	荒川(関東) 1.5	高津川 1.1	江の川 1.6	鶴川 5.4
6	荒川(関東) 5.6	尻別川 6.9	尻別川 7.3	大淀川 1.3	小丸川 1.0	山良川 1.5	尻別川 4.2
7	網走川 5.5	四万十川 5.6	網走川 6.7	高梁川 1.2	那珂川 1.0	天塩川 1.4	番匠川 4.0
8	荒川(北陸) 4.8	天塩川 4.4	番匠川 5.9	尻別川 1.2	米代川 1.0	高津川 1.2	荒川(関東) 3.7
9	円山川 4.5	太田川 4.2	荒川(関東) 5.6	姫川 1.1	肱川 0.9	山国川 1.0	太田川 3.1
0	四万十川 4.3	仁淀川 4.1	太田川 5.4	安倍川 1.1	江の川 0.8	太田川 0.8	淀川 2.5
109水系平均	1.9	2.3	2.5	0.5	0.3	0.4	1.3

また、沿川市町村人口あたりの年間利用者数で見た場合は、地方部の河川である肱川、円山川、四万十川、小丸川が多く、これらの河川では一人あたり1年間に10回以上河川空間を利用していることになり、利用者総数の絶対数では少ないものの、地方部の河川においては、地域に密着した利用がなされているといえる(表一5参照)。

(2)平成6年度の調査結果から

平成6年度の推計は、調査期間をゴールデンウィークに限定(4月29日~5月8日)の10日間を設定)して行った。

その結果を見ると、この期間に河川空間を利用した人の総数は、東京23区の人口とほぼ同じ786万人と推計され、わが国の総人口から見ると、6.5%の人がゴールデンウィーク期間中に1回、河川空間を利用していることになっている。地方別にみると、関東及び近畿地方の利用者総数が他の地方に比べてかなり多くなっている(表一6参照)。

表一 6 ゴールデンウィーク期間における河川空間利用者総数(万人)

地方	合計	利用形態別利用者数				利用場所別利用者数			
		スポーツ	釣り	水遊び	散策等	水面	水際	高水敷	堤防
北海道	29.8	14.2	1.2	0.6	13.8	0.2	1.7	22.5	5.4
東北	47.7	6.2	2.2	2.5	36.8	1.3	2.8	38.0	5.6
関東	257.8	75.1	30.7	23.1	128.9	6.5	47.3	154.0	50.0
北陸	33.0	8.4	2.0	1.8	20.8	0.3	3.6	23.8	5.3
中部	77.8	25.4	4.3	11.6	36.5	3.9	12.7	53.9	7.3
近畿	237.4	82.4	17.1	15.7	122.2	6.6	26.5	163.8	40.5
中国	44.2	14.1	4.4	8.0	17.7	1.3	11.1	24.1	7.7
四国	16.8	5.4	0.5	4.4	6.5	0.7	4.2	10.9	1.0
九州	41.5	13.5	7.2	3.5	17.3	1.0	9.7	25.7	5.1
109水系合計	786.0	244.7	69.6	71.2	400.5	21.8	119.6	516.7	127.9

また、この期間の河川空間利用者総数ベスト10は、第1位から淀川、利根川、多摩川、荒川(関東)、木曾川、北上川、太田川、揖保川、信濃川、石狩川の順になっている。この中で第1位の淀川の利用者数は、同じ期間の東京ディズニーランドの入場者数の約4倍と推計される。

(3)その他

河川空間利用者数の主たる変動要因は、季節による変動が挙げられる。全国的に各季節の休日について利用者を比較した場合、春季の利用者が最も多く、次いで夏季と秋季が同程度となっており、冬季は春季の1/3程度の利用者数となっている。

また、地方別に見た場合にはその傾向は大きく異なり、



関東、近畿、中国地方では春季の利用者数が最も多くなっているのに対し、北海道、東北、北陸地方では夏季の利用者数が最も多く、降雪の多い冬季の利用者数は大きく減少する。

#### 4. おわりに

河川空間利用の実態については、現在のところ、年間の利用者数の推計および主な利用目的の概要が把握され、利用実態の把握という目的においては、第1段階の調査を終えたところであるといえる。

今後は、年々多様化する河川空間の利用形態について整理し、具体的な調査項目を設定しながら、より詳細に利用実態について調査を行っていく必要があると考えられる。

また、各河川の特長（河川の要素、周辺特長等）は様々であり、特に気候条件やイベントの開催等により利用者数の推計に大きな影響を与えることから、全国一律の調査ではなく、より地域性に考慮した調査を行っていくことも求められており、新たな調査フォーマットづくりが望まれている。

## ■編集部だより■

新しい企画として、機関誌にやさしさ、人間の意志を伝えようと、本号より〈川の魅力〉と題して川の文化財や川に関するトピック等を編集委員により掲載することにしました。

●某月某日 京都は丹後の国、峰山町へ行った。田んぼの中に町をつくったのか、町のまわりを田んぼにしたのか、何の変哲もない片田舎である。その町のヒナには稀な7階建のビジネスホテルに泊まった。展望風呂もついている。町内ではNTTに並ぶ近代的な建物である。じゅうたんをしきつめたロビーからエレベーターにのりこむと、小さなアマガエルが一緒にとびこんできた。センターに帰って同町出身の理事長に報告に及ぶとあわてず、さわがず「自然の豊かなところですから、私どもは自然と共に生活しています。」 (T.K.生)

●最近頃に喫煙者に対する風当たりが強くなった。タバコはインディアンが喫い始めた頃から、害があったとすればあったのである。最近急にタバコに有害物質が増えたのではない。逆に、軽く、まろやかな味わい、所謂、人にやさしいタバコが増えた。にも拘らず、親の敵にあったかのように敵対視されるのは納得できない。山本夏彦流に言う、タバコが悪いのなら始めから言え、我国伝来以来何百年も黙っていて、今になって急に悪者扱いするのはケゲンである。これを茶の間の正義、女・子供の正義という。

とはいえ、お陰でタバコが一層旨く感じられるのも事実である。人のいやがることをその面前で堂々とするのは一種の快感がある。こっそりかくれて吸うのはスリルがある。我が身をかえりみず、八夕目を気にせず喫煙を続けるには強烈な意志の持続を必要とする。将に喫煙は自己鍛錬の一つの道であると私は信じている。

(T.K.生)

●11月の中旬に東北地方で、一級河川の支川を源流部付近から本川との合流部まで見て回る機会を得た。見事な紅葉の中、源流部付近では頭上にのびた葉を愛で、合流部付近では遠くの山々が紅と黄に染まる姿に感激した。歩いていると空が徐々に大きくなることを実感し、川の流れも空の広さと伴に幅を増していた。ともすると本来の目的（横断工作物の調査）を忘れてしまいそうな1日であった。

(T.O.生)